

平成29年度 第2回ウェリントン安全対策連絡協議会  
(開催報告)

- 1 開催日時：平成30年3月27日14時から15時（於：当館多目的ホール）
- 2 出席者：邦人団体代表9人  
当館：高田大使，中井公使，小野書記官，平田書記官，浜田書記官，開地書記官

3 議題

- (1) 最近の域内テロ関連事案と安全対策
- (2) 最近のNZの治安情勢  
現役警察官から見たウェリントンの治安・安全情勢
- (3) 当地からのお知らせ
  - ・在留選挙登録の御案内
  - ・ジャパンレールパスを利用するために必要な書類について
  - ・クック諸島の安全対策基礎データ改訂と「たびレジ」登録について
- (4) 各団体からの活動報告
- (5) 意見交換

4 大使館からの説明内容

- (1) 高田大使から冒頭次のおり述べました。

本日の協議会では，NZ警察の現役警察官から，最新の当地の治安情勢について話を聞く機会を設けました。同氏は，NZ警察の現役警察官であり，当地の治安情勢について日本語で話すことができる数少ない人材でもあります。本日の協議会での意見交換が在留邦人の皆様のお役に立てば幸いです。

- (2) 続いて大使館から，議題3（1）及び同（3）について次のおり説明しました。

前回の協議会（昨年9月）から現在までにかけて，邦人が関わるテロ事案は世界中で発生しなかったものの，テロ情勢は依然欧米・アジア等への広がりを見せており，ソフトターゲットを狙った事案が起きています。幸い，この期間にNZにおいてはテロ事件は発生していませんが，隣国の豪州（2017年12月のメルボルンにおける車両突入事件等）では未遂を含めてテロ関連事案が発生しており，また米国でも銃による殺傷事件が起きています。従来から指摘しているとおりに，邦人もテロの標的となり得ることを認識していただき，事前にしっかりした情報収集を行っていただきたく，海外に出掛ける際には「たびレジ」への登録をお願いします。

- (3) その後同氏から，現役警察官から見たウェリントン及び近郊の治安・安全情勢について講演を行いました。ア NZ警察として2021年までの目標（ア）犯罪件数を1万

件削減する。(イ)マオリの犯罪率を25%削減する。(ウ)9割の国民の信頼を勝ち取る。),  
イ DVへの対応(先進国の中で最も深刻である。), ウ 少年犯罪への対応(特に刑事罰  
を問われない14歳未満の少年への対応が問題となっている。), エ ギャング間の抗争,  
オ 薬物(覚醒剤,大麻,「合成」大麻)の蔓延。

(4)これに対し在留邦人の代表から以下の質問がありました。

ア 普段ギャングを見かけることは少ないが,見かけた際に注意すべきことは何か。イ 少年犯罪が深刻であるとの指摘であったが,更正プログラム等の有無。ウ 些細な事案でも警察は取り合ってくれるのか,如何なる場合に警察に通報をすれば良いのか。エ 近所の家庭でDV事案を見かけたら,躊躇なく通報しても良いか。オ 動物を放し飼いにしている飼い主がいる場合にも,警察に通報して差し支えないか。カ 警察に通報することが躊躇される些細な事案の場合でも通報すべきか(後刻,保険の申請を行う場合等に必要なので,些細な事案であっても,CRL(Crime report line)に通報すべきである。)。キ 空き巣事案に遭った際に,被害者としてすべき点とすべきでない点は(現場の保存はすべきだが,片付けが必要な場合には写真を撮って証拠を残し,警察の臨場を待つことも可である。

## 5 参加者から情報・意見等

(1)普段は感じたことがなかったが,本日の話を聞いて危機感を持った。警察への通報については,どのような状況で通報すべきか理解できた。今後も大使館の協力を得つつ,補習授業校としても安全対策を図って行きたい。

(2)自分の居住する地域は平和であるが,一度廃品回収の際にガラス瓶のコンテナを盗難されたことがある。NZでは,市内中心部でないと,ギャングを見かけることも,警察官を見かけることさえも少ない。そういう観点から,警察官の増員には賛成である。

(3)我々住民としても,保険への加入や監視カメラ等の設置等の自己防衛が必要であると感じた。

(4)本日の話は以前この場でも紹介されたものもあるが,NZ警察は人的制約な補うために最新の技術を駆使している。

(5)自分は今まで欧州に滞在したことがあるが,その上で日本とNZの警察の比較はとてもためになった。また,改めて日本の警察の優秀さを実感した。

(6)自分はパーマストンノース市に約20年間住んでいるが,同市が如何に安全かを実感した。中でも,IPUの所在地や自分の住んでいる地区が市の開発区に指定され,裕福な家庭が多いという事情もあるのであろう。

(7)自分は本日初めて協議会に参加したが,大変勉強になった。本日の話を踏まえ,学生達に対しては,NZは日本とは異なること,常時「危険」への意識を持つことが肝要であると伝えたい。

(8)大変有益な話をうかがった。自分も10代の子供の母として,子供がパーティ等に

出掛ける際にしっかり注意喚起をすることとしたい。

(9) 最後に、大使から、NZ警察の高官は防犯(Prevention First)を強調しているが、その具体策は何かと質問しました。これに対し同氏からは、NZ警察では、DV対策とマオリの犯罪に重点を置いており、単に個別の事案を処理するのではなく、事案発生に至る経緯をより大きな視点から観察するようにしている。